

# 拝むのではなく

シリーズ～さよならキリスト教～

2024/10/27

# 日本人の「信仰心」とは

- 宗教大好き日本人

- 人口は1.2億人だが、宗教人口は1.8億人！

- 日本人の宗教心は「**拝む**」姿に表れている

- 日本人は何に対しても拝んでいる

- お寺・神社・初日の出・お地蔵さん・先祖……

- 信じているというより、それらの御利益に預かろうとしている

- 畏れ敬っている態度を示し、願いを叶えてもらう

- 御利益がなくても文句は出ない(本気で信じているわけではないから)



# 拝む



# 「拝む」対象の代表、先祖(死者)

- 日本人が最も恐れ拝んでいるのは先祖
- 先祖を崇拝する行事は大切に守られている
  - お盆(盂蘭盆会)
    - 餓鬼道に堕ちた亡母への供養／仏教行事
    - 日本に仏教が伝わった後、先祖崇拝と結びついた
  - お彼岸(春と秋)
    - 仏教行事とされているが、インドや中国にはない
    - 「春分の日」:「自然をたたえ, 生物をいつくしむ日」
    - 「秋分の日」:「祖先をうやまい, **なくなった人々をしのぶ日**」
- 仏壇の中心は「位牌」(死者の記録)
  - 火事になったら真っ先に持ち出す物？

# キリスト教における「信仰」とは

- キリスト教はいたずらに「**拝む**」教えではない
  - 信じる「対象(創造主)」「内容」がある
- 願いを叶えてもらうのではなく、むしろ「対象(創造主)」の願いを聞き、従う
  - 創造主(絶対神)を信じる(認める)ことから始まる
  - 「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」ローマ10:17
- 信じるべき教えを定めている
  - 正典(聖書)を神の言葉と認めている
  - キリスト教信仰とは「**聖書信仰**」に他ならない

# 日本人の信心には「正典」がない

- **正典も教理もない不思議な宗教、神道**
  - 「神道は、日本の宗教。開祖や教祖、教典を持たず、また、一神教とは対照的に森羅万象あらゆるものに神が宿るという思想に基づく」(Wiki)
  - 「アニミズム」:あらゆるものに靈魂が宿る
- **仏教は経典があるが意味不明である**
  - 「お経」は唱えるもので理解するものではない
- **もちろん先祖崇拝には正典はない**
  - なんとなく昔ながらの習慣を守り続けている
  - その意味や目的

# 日本人の信心には「正典」がない

## • 正典も教理もない不思議な宗教、神道

- 「神道は、日本の宗教。開祖や教祖、教典を持たず、また、神教とは対照的に本器下象あらゆるものがある (Wiki)

- 「アニ

## • 仏教は

- 「お経

## • もちろん「正典」には正典はない

- なんとなく昔ながらの習慣を守り続けている
- その意味や目的

拝みはするけれど、  
聞き従うつもりは全くない  
＝自分こそが正典(神)で  
ある

# 正典信仰の問題

- **自分だけが正しい教えだとし、他の教えを否定する＝「宗教的不寛容」**
  - もし神がおられるなら唯一絶対であるのだから、複数の神々を信じることはありえない
- **正典があるから対立し、戦争を行う**
  - はたして日本は“なんでも拝み教”だから敗戦後戦争をしなかったのだろうか？
- **正典の理解の仕方で分裂している**
  - 同じ聖書だが読む側の人間によって理解が異なることはいかんともしがたい

# 教会が共通して信じている事柄

- 唯一絶対の神＝創造主
  - 私たちは「被造物」である
- 人類は創造主に背いたので裁かれる
- 神の子が人となって地上に来られた(イエス)
- イエスは全人類の身代わりに裁きを受けた
- 贖いが完成した証拠として復活された
- イエスを救い主(キリスト)と信じる者は、イエスの体である教会を形成する

無正典信者の日本人には多すぎるかも？

# 十字架を「拝む」だけではダメなのか

- 教会を“神社仕様”にする

- 十字架を「本尊」にして自由に参拝できるようにする

- キリスト教を“仏教仕様”にする

- 「南無阿弥陀仏」ではなく「南無キリスト」と唱える

- キリスト教を“日本教仕様”にする

- クリスマスは見事に日本に溶け込んでいる

- **もしそうしたらキリスト教の価値はなくなる**

- このままこの国からキリスト教がなくなったとしても「拝む」だけの教えにはなれない

木は薪になるもの。人はその一部を取って体を温め／一部を燃やしてパンを焼き／その木で神を造ってそれにひれ伏し／木像に仕立ててそれを拝むのか。また、木材の半分を燃やして火にし／肉を食べようとしてその半分の上であぶり／食べ飽きて身が温まると／「ああ、温かい、炎が見える」などと言う。残りの木で神を、自分のための偶像を造り／ひれ伏して拝み、祈って言う。「お救いください、あなたはわたしの神」と。彼らは悟ることもなく、理解することもない。目はふさがれていて見えず／心もふさがれていて、目覚めることはない。

イザヤ書44章15～18節